

病害虫発生予察特殊報 第2号

作物名：トルコギキョウ
病名：トルコギキョウべと病（仮称）
病原菌：*Peronospora chlorae* de Bary

1 発生確認経過

平成30年6月、中信地域のトルコギキョウ栽培ほ場において、葉が黄化して葉裏に白色～灰色のカビが生じ、茎葉や頂部が曲がる障害が発生した。症状や病斑部の検鏡観察から、べと病が疑われたため、名古屋植物防疫所に同定を依頼したところ、*Peronospora chlorae* de Bary による病害であることが確認された。本菌による病害は、日本では未発生であるが、諸外国ではべと病として報告されている。

2 病徴及び被害

- (1) 罹病した葉は淡緑色又は黄化し、葉の表面には霜状(白色～灰色)の病原菌の菌そうが確認される(図1～4)。
- (2) 葉は外側に巻き、やがて萎れる。病斑は節部や茎にも形成され、発病部位より上部は、ねじれや曲がりになる(図5, 6)。

3 発生生態

- (1) 中国、トルコ等の20ヶ国余りで、トルコギキョウを含むリンドウ科植物で発生の報告があるが、リンドウ(*Gentiana sp.*)は宿主ではないとされている。
- (2) 病原菌は、外国ではトルコギキョウのべと病菌として報告されており、他作物に発生するべと病と類似した発生生態を有するものと考えられる。

4 防除対策

登録農薬は無いため、以下のような耕種的手法による防除を実施する。

- (1) 土壌の排水性を確保し、過度な灌水や施肥を避け、換気を行う。
- (2) 発病株は抜き取り、ほ場外に搬出し埋却する。
- (3) 風雨により分生子が伝搬されるので、頭上灌水は避け、可能なら点滴やチューブ灌水に切り替える。



図1 葉裏に形成された霜状の菌そう



図2 霜状の菌そうを拡大

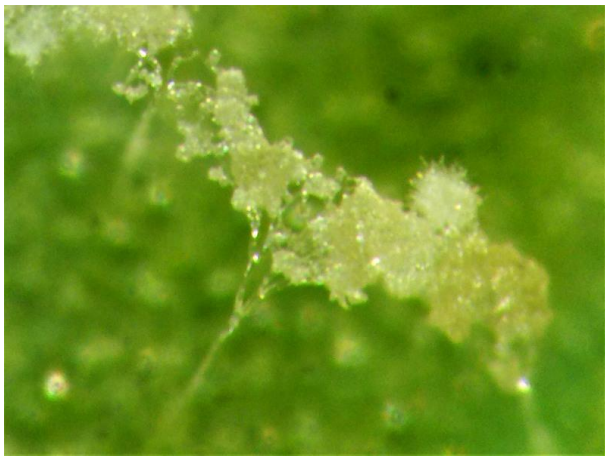


図3 葉裏の分生子柄（樹枝状に分岐した先に分生子を形成）

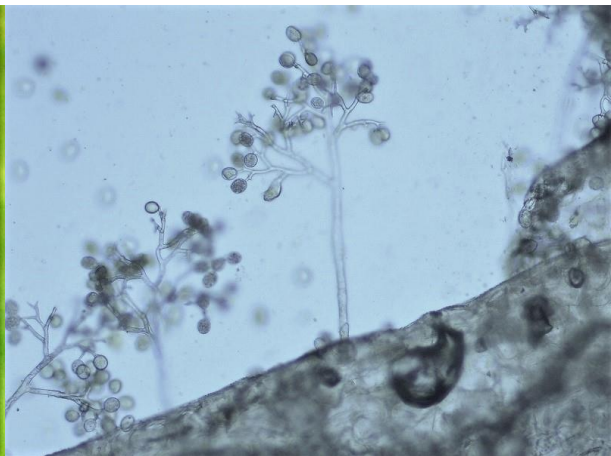


図4 分生子柄と分生子



図5 発病した葉は黄化して巻き込む



図6 発病部上位の茎が曲がる症状もみられる

長野県病害虫防除所 中南信担当
TEL : 0263-53-5642 (直通)
FAX : 0263-54-4508
E-mail : bojo-y@pref.nagano.lg.jp